

平成 30 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 認知症高齢者グループホームつどい（ひまわりの丘棟）

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370901001		
法人名	医療法人 一秀会		
事業所名	認知症高齢者グループホームつどい（ひまわりの丘棟）		
所在地	岩手県一関市中里字石川瀬13-1		
自己評価作成日	平成30年9月1日	評価結果市町村受理日	平成30年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani_ctrue&Ji_gyosyoCd=0370901001-00&PrEfCd=03&VerSi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の体調や気分に合わせて、出来る事はご自分でやっていただいております。指先を使うレクや作業をご本人のやりたい時に勧めたり、気の合った入居者様同士で足上げ体操を行なったりと、認知機能や身体機能の維持が出来るように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、「ひまわりの丘」と「たんぼの丘」の二つのユニットが隣接しウッドデッキでつながり相互交流と緊密な連携が図られている。新市街地の中、民家や集会所、市の総合体育館やショッピングセンター更には各種飲食店等の店舗、事業所などが多く立地する地域に位置している。利用者は、日々、周辺散歩の際のあいさつや花・野菜のお裾分けなどを通して、地域の方々との交流がしっかりと定着しており、地域理解や信頼感にもつながっている。地域住民の介護相談等にも応じており、地域とともにあるホームとして信頼も得ている。ホームは、母体法人が医療法人ということから、医師や看護師による容態急変、終末期等対応によって利用者・家族、職員の安全や安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

平成 30 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームつどい (ひまわりの丘棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示し、職員は意識しながら介護業務を行っている。	事務室やリビングに掲示して、日々、職員がそれぞれに目を通して意識を高めるとともに、毎月の職員会議で唱和しながら、共有を図り実践している。毎年度当初に、法人代表者から、理念を踏まえた講話を聞き、更なる意識の高揚につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の夏祭り、運動会、文化祭などの行事にお誘いをいただいている。文化祭には、入居者様の作品を展示させていただいている。避難訓練には、地区の方にも参加いただいている。	普段は、近隣散歩や野菜などのお裾分け、隣接する畑で作業をするご近所の方々と、挨拶や会話を交わしている。避難訓練に参加してくれる方や隣接の公民館行事に参加する方が、待ち時間に立ち寄ってくれる場面も時々ある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や避難訓練時などを通じて、認知症の方に対する支援の仕方をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や入居者様の活動内容を報告し、参加者よりご意見をいただき、サービス向上に活かしている。	利用者や家族も委員となり、ホーム利用者に身近な内容も話し合われている。会議には、利用者の活動や様子を写真プリントとして資料提供するなど、見やすく理解しやすいように工夫している。現在は特に提言された意見等はないとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者とは、電話での問い合わせをしたり、書類提出時などには、報告や相談を行っている。	運営推進会議の場を活用して指導や助言、情報交換を行なっている。介護関係書類をしばしば市に持参し担当者とは顔見知りとなっている。時々来訪する生活保護ケースワーカーや介護相談員との連携にも努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに努めている。学習会を行い、身体拘束について職員が正しく理解できるよう努めている。玄関の施錠は行っていない。6月に身体拘束適正化のための指針を掲げ、運営推進会議時の委員会で報告を行なっている。	法人内研修や「身体拘束」や「虐待」をテーマとしたホーム内研修を通して、知識・スキルアップに取り組んでいる。特にスピーチロックについては、日々互いに気をつけながらその場で注意合っている。施錠は夜間(防犯)以外は行っていない。	

[評価機関 : 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会や研修会を通して、職員の理解が深まるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、学習会を行うことにより、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様には、分かりやすい言葉で丁寧に説明を行っている。十分な説明をすることで、不安を解消し、納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する利用者・家族等の意見を反映できるようご意見箱を設置しているが、意見が寄せられたことはなく、反映するまでに至っていない。	利用料支払いや面会時の来訪、運営推進会議の場で意見を頂いている。現在、運営に関する意見は出されていない。今後も、ホーム通信やお便り(利用者の様子)を伝える中で、家族との関係を一層深めながら意見等に繋げたいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の業務の中で、職員の意見や提案を聞き、相談をして反映させている。勤務体制については、職員の希望を配慮している。	普段の業務中を含め、毎月の職員会議や申し送り時などにも、お互いに思っていることを出し合い話し合っている。連絡ノートへの記録はもとより、相互の報告・連絡・相談を徹底している。休暇・研修時等の勤務体制は、円滑に協議調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議で学習会を行い、職員のスキルアップに努めている。外部研修を受けられる機会があれば、参加を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会があれば、参加を促し、サービスの質の向上につながるよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族に生活状況や症状などを確認し、安心して暮らせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主にご家族様からの相談となるが、困っていること、要望などを伺い、理解することで信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様のお話をお聞きして、場合によっては他事業所をご紹介させて頂く事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員のお手伝いをお願いしている。洗濯物たみ・食器拭き・カーテンの開閉・清掃・ゴミ捨てなどを一緒に行い、同じ時間を共有し関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から、面会の際には状況報告などを行っており、電話にてお伝えすることもある。介護サービス計画書の見直し時には、ご家族の意向も考慮して、ご本人を支える関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誕生会などには、馴染みの場所に出かけて思い出を振り返る機会を設けている。ご家族に手紙を送ったり、電話をかけたり、ご家族の協力を得ながら、つながりを継続する支援に努めている。	年々少なくなったり薄くなってゆく馴染みの関係だが、利用者や家族等から友人や知人、昔のことを問いかけながら、そのヒントを得ている。誕生日には、馴染みのところに出掛け、好きなものを食べたりして、馴染みの継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルを3つに分けて、入居者同士の関係がうまくいくよう配慮している。必要に応じて、席替えなども実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お見かけした際には、その後のご様子など伺える範囲で確認するよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の生活の中で、気持ちや意向をくみ取れるように努めている。困難な場合は、ご家族様より情報を得て、ケアに反映させている。	本人本位を基本として自由に暮らしていただくことを基本にしている。センター方式を一部活用しながら、思いや意向について、本人から聞き取り、話さない方からは表情や行動から推し量っている。気づき等は、記録・共有し実践に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様にこれまでの暮らしぶりをお聞きし、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事・水分・排泄・バイタルの核チェック表を作成し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様の意向を確認し、介護サービス計画書の作成に反映させている。毎月の会議で、日々のケアの振り返りをし、状況変化は見直しを検討している。	担当制をとって、ケアチェック表へ記録を行っている。計画作成担当者は、3ヵ月(短期)ごとに見直しを行いながら、6ヵ月ごとに新たなプランを作成している。各職員は、カンファレンスでアイデアを出し合い、利用者に寄り添ったプランとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアチェック表を活用し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診はご家族の希望に応じて、職員対応で行っている。ご本人の希望により、買い物に付き添うこともある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある宅配サービスや訪問美容室を定期的に利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限りは、入居前からのかかりつけ医の受診を支援している。定期受診は職員対応で行うが、ご家族希望があれば、同行している。	利用者・家族の希望するかかりつけ医となっている。定期受診の同行は、職員を基本にしている。職員と家族同行で受診したり、訪問診療を受けている方もいる。普段は、法人の訪問看護職員とホーム職員とで健康管理している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に法人看護師が巡回し、健康チェックを行っている。緊急時には、相談や対応をさせていただくこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、医療関係者やご家族と情報交換や相談を行い、ご本人が不安なく暮らせるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族様から終末期等のあり方を確認している。ご希望があれば、看取りにも対応しており、安心して最期を迎えられる支援に取り組んでいる。	看取りの指針を作成し入居に当たって利用者や家族へ説明している。家族の思いや願いの変化に配慮し、実際の終末期・看取り対応に当たっては、納得するまで話し合いを重ねている。毎年、職員全員で看取り研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを常時事務所に掲示し、職員が適切な対応が出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の夜間帯などを想定した避難訓練を実施しており、地域住民にも参加いただいている。運営推進会議時、話題としたり、地域との協力体制を築いている。	自主訓練と消防の立会いの避難訓練(火災・夜間想定)を、毎年実施している。訓練時には、地域に案内を出し、複数の方に参加いただき避難した利用者の見守りをお願いしている。3日程度の備蓄、職員の消火訓練やAED講習受講も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりとの会話の中で、その方のこれまで築いた人格を尊重し、敬意を持った声かけに努めている。	日頃から人生の先輩、年長者として尊い、職員が地域の季節行事を教わり、利用者はホームの洗濯物・新聞紙畳みなどの役割も担っている。声かけも、さん付けなど不快にならないよう注意している。職員の気づきは連絡ノートに記録・共有し、実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のお話を傾聴し、何を伝えたいのか、表情や仕草からくみ取れるようにし、その思いに添った声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人が、自分で出来そうだと思うことや何をして過ごしたいのか希望をお聞きしている。それぞれの希望で、新聞たたみやタオルたたみ、食器やテーブル拭きなどのお手伝いや、足上げ体操、居室でテレビや音楽鑑賞の方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りの声かけや必要に応じて介助している。ボタンのかけ間違いをさり気なく直したり、トイレ後の身だしなみを整えるお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や時節に合わせたメニューを楽しむにしている。入居者様と職員が協力して、配膳や下膳をしている。時間になると、自発的に食器拭きの手伝いをしてくださる方もいる。	法人本部の配食を利用している。利用者は、テーブル拭きや片づけ、茶碗拭き等、出来ることに参加している。誕生会やクリスマス会、忘年会等の行事食やおやつ作りには、職員と一緒に買い物から調理、盛付などを行ない楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた形態の食事を提供し、栄養士にカロリーの相談をしている。水分量の確保のため、好みの飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は、歯磨きの促しをし、口腔状態に合わせたケアを行っている。ご自分でできない方は、介助している。義歯は洗浄剤を使用し、清潔にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、早めにトイレ誘導の声がけをしている。定期的に声掛けをしたり、個々の訴え時に対応している。	介護用品を付けている利用者を含め、日中夜間ともトイレ排泄に努めている。職員は、排泄チェック表を小まめに記録しながら、適時適切に誘導している。声掛けは、利用者の近くで小声で優しく心がけ、プライバシーには特に注意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、水分摂取の声がけをしたり、足上げ体操などの運動をしていただくよう勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は決まっているが、ご本人の体調や気分に合わせて支援をしている。場合によっては、時間帯を変更して対応している。介助をしながら、会話をしたり、歌を歌ったりしている。	週に2、3回午後に入浴し、必要な時は毎日入浴にも対応している。拒否の強い方には無理強いせず、時間を変えたり清拭などを行なっている。菖蒲湯や柚子湯、入浴剤を使い、歌を歌ったり職員と話したりしながら、入浴時間を楽しく過ごしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調を確認しながら、昼食後は、ゆっくりと午睡が出来るように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、服薬の目的や副作用の理解にも努めている。変化があれば、医師や看護師に報告や相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員の手伝いを自分の役割と感じて手伝ってくださる時は、その都度お礼の言葉を伝え、感謝している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候状態をみながら、職員と一緒に近所を散歩したり、買い物や出かけることもある。誕生会には、希望する場所にドライブしたり、外食を楽しんでいる。お花見やもみじ狩りに全員で出かける事もある。	天候と体調や気分を考えながら、近隣の散歩や買い物、文化祭等の行事にも出かけている。利用者の希望があれば、誕生日には外食に出かけている。今後も四季折々に花見や紅葉狩りなど、気分転換を兼ねてドライブに出かけたいとしている。	家族等との触れ合い深め、絆を強くするための支援として、ドライブ等で外出の際に、家族等にも参加を促す案内や声掛けを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の要望に応じて、職員と買い物に出かけることもあり、会計の際はご本人にお願いすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望で、電話を使えるように支援している。毎月ご家族に手紙を書いている方もおり、郵送をお手伝いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その日の天候や気温により、快適に過ごせるよう室温を調整している。季節に応じて、壁飾りを職員と一緒に作成して飾り、季節を感じていただいている。	リビングにはテレビやソファ、食事用のテーブルが、思い思いに座れるように配置されている。壁には利用者皆さんで手づくりの切り絵や貼り絵(四季の花)が飾られ、テーブルにはコスモスも飾られている。毎日、清掃が行なわれ気になる臭いはない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどで気の合った入居者同士で座って、テレビを観たりして過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を配置したり、壁には家族の写真や手紙を貼っている利用者様もいる。	入り口にはマスコット人形など、利用者それぞれに目印となるものを飾っている。壁にはカレンダーや自作の作品、持ち込んだダンスの上に家族写真や時計を置いている。持ち込んでいる衣料品は、備え付けのクローゼットにきちんと整理されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の居室の扉には、目印の人形などを飾って、分かりやすくしている。トイレまでの廊下は、安全に歩行できるよう手すりがある。		